

ぴーすは、障がい児の余暇活動をさまざまな形で支援や運営をしています。

平成21年度に支援及び運営をしたグループの、個別報告は以下の通りです。

1：おもちゃ図書館 ぽっぽ

たくさんのおもちゃが揃っている中で、障がい児とその兄弟が気がねなく自由にのびのび遊べる場所の提供をしているグループ。対象は0～10歳程度の障がい児とその家族で、会場は堺市総合福祉会館プレイルームです。

子ども達とお母さん達が、好きな時に好きなだけ遊んでおしゃべりして、時を過ごせる憩いの空間です。

私達スタッフも、ほとんどが子ども連れでの参加。皆さんと一緒にほんわかしたムードで楽しく活動しています。

ぽっぽではたくさんのおもちゃに囲まれ、子どもたちは思い思いに遊び、ゆったりとした空気が流れています。

お母さん達はそんな子どもを見守りながら、ぽっぽで知り合った仲間たちと一緒に、子どもの成長を喜びあったり、時には悩みの相談や情報交換をしたり・・・スタッフ達もかわいい子どもたちの笑顔に癒され、たくさんのお元気をもらいながら活動を続けています。

活動のようす

今年度は、新しいテント2つが仲間入り。いもむしテントに入ったTくんは、トンネル部分で止まりゴロンゴロンと横に転がって遊んでいました。外から見るとまるでイモムシが生きているみたい・・・！

キティちゃんのおうちテントでは、色んなものを持ち込んで、それぞれの遊びを楽しんでいます。多い時には5～6人の子どもたちが中に入り定員オーバー。テントが倒れてしまうことも・・・。そんなハプニングが、子どもたちにとっては楽しかったりするようです。二つのテントは今年、大人気のおもちゃです。

ある日の「ぽっぽ」・・・

開館から閉館まで、比較的ゆったりとした雰囲気のおもちゃでした。

ここ数か月、必ずヘルパーさんと散歩の途中にぽっぽへ立ち寄ってくれるMちゃん。いつもは、一人で好きな場所へと転々としているのですが、今日は初めてスタッフの手を取り、引っぱって「ねえ、こっちだよ！」と遊びに誘ってくれました。お人形コーナーから、大好きな指人形を持って来てくれたので、スタッフが歌いながら手遊びをすると、最初は、じーっと見つめるMちゃんでしたが、だんだんと笑顔になり手拍子をしてくれました。それから2曲、3曲と歌うと手拍子もさらに大きくなり、とってもかわいい笑顔を見せてくれました。Mちゃん、ありがとう！

平成21年度は

開催回数：10回（5月は新型インフルエンザ流行の為、10月は福祉会館がイベント開催のため実施できず）

おもちゃ貸出数：13～33点（月平均25点）年延べ件数247件

参加者：46～82名（月平均65名）

年延べ人数648名

その他の活動

活動	内容	回数	参加者数
機関紙よっTOYで！	編集会議・印刷	年10回（月1回）	延べ 50名
クリーニング	おもちゃの清掃	年10回	延べ 45名
スタッフ会議	運営について	年 2回	延べ 16名
総会		年 1回	7名
イベント	バルーンアート	年 1回	60名
修理会	おもちゃ病院	年 1回	16名
全国連絡会近畿地区研修会	事務局	年 1回	9名
イエローシートキャンペーン	啓発活動	年 4回	8名
合計			211名

開館日・その他の活動合わせての延べ総数 859名

ぽっぽは、ぴーす会員以外でも誰でも参加可能なグループです。

障がい児が集団で音楽を楽しむ支援をしています。年齢や障がい状態にあわせて小さなグループを構成しています。幼児は保護者と一緒に、学齢期はひとりで or ヘルパーさんと一緒に、歌う・聴く・演奏する・踊るなど自分を自分らしく表現しつつ楽しみます。現在4グループが月1回、土曜日に活動中です。

平成21年度は

実施回数：35回（年間延べ参加者数117名）

実施場所：ソフィア堺ミュージックルーム

★第1グループ／小学低学年グループ（比較的コミュニケーションできる児童）

母と一緒に参加をしてもらっていますが、活動は単独で行うことが多いです。「歌う」＝数曲の中から一人ずつが曲を決め、みんなで歌います。「楽器」＝太鼓のリズム打ちを練習中です。「聴く」先生のピアノ演奏を静かに聴いています。

★第2グループ／小学低～高学年のグループ（コミュニケーションの困難な児童）

母と一緒に参加しています。各自が自分のスケジュールを用意。挨拶はビッグマック（会話補助装置）を使い発語のない子も元気に「こんにちは！」 「踊る」＝曲ごとに歩いたり、飛んだり、寝転んだりしっかり身体を動かします。「楽器」＝太鼓や鳴子を自由に鳴らす、「聴く」＝先生のピアノを座って静かに聴く練習中です。

★第3グループ／小学低学年グループ（比較的コミュニケーションできる児童）

「歌う」＝数曲の絵カードから選んでみんなで歌う、「踊る」＝歩く、飛ぶ、フラフープを使ってのリトミック、「楽器」＝太鼓のリズム打ちを練習中です。「聴く」＝先生のピアノ演奏を静かに聴き、拍手も忘れません。

★第4グループ／小学高学年～中学生グループ（コミュニケーションの困難・比較的できる児童混合）

「挨拶」発語のない子はビッグマック（会話補助装置）を使い「こんにちは！」。発語のある子もまねしてビッグマックであいさつ。親子参加ですが、「踊る」以外は単独で活動。新メンバーの加入もあり、徐々に母子分離での活動へと移行中です。

【ある日のようす】

この日、いつものお母さんではなく、おばあちゃんと参加のSくん。ドロップスが始まって少しして…、突然、いつもと違ってMDデッキの音源をストップさせようと、強引に手を伸ばしてきました。ナニ？？どうしたの？ナニがあった？とスタッフも戸惑ったのですが、繰り返しストップさせようとがんばるSくんをなんとか止めるうちに、あ、もしかして、今日はスケジュール…やってないやん！と気づきました。



いつもは、入室後自分でホワイトボードのスケジュール見ながら、自分のスケジュールにカードを並べていたSくん。曲が終わるごとにカードをおしまいになっていたのに、今日はそれやってなかったんです。

大急ぎでスタッフがリュックをさがし、スケジュールを取り出しカードをセット…。「今、これやってるよ」っていうのがわかると、さっきまでの「音源停止行動」がウソのようにおさまり、静かにイスに座って、楽器のリズム打ちも取り組むことができました。

なんとなく、毎度のことで、淡々とおしまいにしてるように見えてたスケジュール。実は、Sくんにとっては、こんなにも大きな支えとなっていたんだと、ホントびっくりしました。すぐに気づいてあげられなくてごめんね～。でも、スケジュールの持つ大きなチカラを、思いっきり実感できたこの日のドロップスでした。全身を使って、ボクにとってのスケジュールの大切さを教えてくれたSくん、ありがとう！

ドロップスは、ぴーす会員のみが利用できるグループです。

堺市が、障がい児の集まる放課後活動に家賃補助をする「ファミリーサポートデイサービス事業」を開始したのは、平成15年のこと。ただしこの事業は「中学生以上の障がい児」が対象でした。というのも、すでにその頃、小学生時代に地元の「のびのびルーム（小学校で行われている放課後対策事業）」に入所していた中学生達が、進学と同時に自分達でグループを作り活動しており、そのグループがモデルとなって実施された事業だったのです。

その頃まだNPO法人ではなかったびーす。しかし、すでに母達は様々な活動をしていましたので「養護学校に通っている小学生障がい児には、地元ののびのびルームに適應できない子が多い」「その子達にも年齢相応の放課後生活をしてほしい」という願いがあり、上記事業の対象にはならないけれど・・・と、養護学校の小学部5・6年生を集めて開始したのが、放課後クラブぱるの始まりです。平成16年秋のことでした。

それから5年半、開始当初小学生だった子ども達は全員高校生になりました。そして、家賃補助だけだった堺市の事業も、ぱるやその他の放課後活動をしているグループの成果を見て、平成20年度から「家賃補助だけでなく、他の費用も対象となる＝堺市障害児放課後活動等支援事業」に切り替わりました。補助額が大幅にアップしたこともうれしかったのですが、何よりうれしかったのは、小学生から対象となったことと、週1回や月1回の利用も可能となったことでした。ぱるで実践してきたことを、堺市が大きく評価してくれたことを本当にうれしく思いました。

その新しい事業に代わって2年目の平成21年度。ぱるは、とうとう小学1年生から高校3年生まで、すべての学年の子どもが利用するようになりました。また上神谷支援学校の創設を受け、南区に新たな活動拠点を設けました。そして以前から要望のあった「地域の小学校に通っている障がい児」を対象としたグループも作りました。参加人数も、開始当初6名だったのが、今では40名以上の利用となっています。

以下、活動拠点の紹介と、参加されている利用者の保護者の感想などです。

●活動拠点

- | | | |
|--------|---------------|---|
| ①ぱるの家 | 中区深井清水町の一軒家 | 百舌鳥支援学校の小～中学部の子どもが利用 |
| ②ぶらすの家 | 北区中百舌鳥町の団地の一室 | 泉北高等支援学校の生徒と、地域小学校の児童が利用 |
| ③ぼんたの家 | 北区百舌鳥本町の一軒家 | 堺支援学校高等部の生徒と、地域の小学校の児童と百舌鳥支援学校の小～中学部が利用 |
| ④ペリエの家 | 南区原山台の団地の一室 | 上神谷支援学校の小～中学部の子と、泉北高等支援学校の生徒が利用 |

●参加人数

小1＝3名	小2＝4名	小3＝8名	小4＝4名	小5＝6名	小6＝1名	
中1＝2名	中2＝1名	中3＝4名	高1＝5名	高2＝3名	高3＝1名	計42名

●保護者の感想

★百舌鳥支援学校 小学部3年の男子（重度自閉症）の保護者

小1の時から、ぱるを利用しているわが息子。外へ出ると、ピューっと走って行ってしまおうし、川や水たまりを見つくと 石や葉っぱを投げて動かない……。そんな息子が、「数人のお友達と一緒に、歩いてバスに乗って帰るなんて絶対に無理！」と思っていました。ところが、すごいものですね。スタッフのみなさんと繰り返し根気よく「みんなと一緒に帰る」練習をし、小3の最後には、とてもスムーズにぱるの家までたどり着けるようになりました。荷物の多い日、雨の日など、まだまだ課題はありますが、「足取り軽くぱるの家へ向かっています～」というスタッフさんからの報告は、私にとって信じられないほど嬉しいことです。

★上神谷支援学校 小学部3年・4年の男子（重度自閉症）の保護者

兄弟揃ってペリエでお世話になっています。今年度は学校が変わって、ぱる活動も変わって、最初は落ち着かない日々が続きましたが、1年経った今では、自分の場所をみつけ、自分の過ごし方もみつけ、安心して通える場所になってきています。長男は、場所が変わると飲食が難しいのですが、1日活動の日はマクドナルドへ連れて行ってもらったり、少しでも何か食べれるように、色々工夫してくださっています。毎回、掃除のたいへんな粘土やおしこの失敗などなど・・・お世話おかけしております m()m 次男は、バスに乗るまでに時間がかかって、なかなかペリエにたどり着けない・公園へ遊びに行くとなかなか帰ってこれないなど、たいへんだったと思います。嫌な顔ひとつせず、付き合っていていただいて、とてもありがたかったです。おかげさまで、今では二人とも随分落ち着いて過ごしており、スタッフの方には、いっぱい

やりたいこと・やってほしいことを言っているようです。無理難題も多いのに、的確な対応をしていただき、ありがとうございます。

★百舌鳥支援学校 小学部5年の男子（重度自閉症）の保護者

自分の意思を伝える手段がなかなか分からず、幼児期から常にトラブルが発生していました。

なので、母もどこか新しい場所に所属する時はいつも緊張の連続で、なるべく家庭内で何事も対応できるように…と家族一丸で頑張っていました。しかし、兄弟もそれぞれに自分の世界ができていき、そう年齢の変わらない本人も、家族と学校だけでない自分の世界を作らないといけないなあと思い、周りの迷惑かえりみず思い切ってばるのお世話になりました。

カードを使って自分の意思を伝えることから始まり、色んなものの中から自分の欲しいものを選択できるようになり、今では一日のスケジュールを確認しながらこなしています。そのお陰でなぜかわからないけど急に怒り出したって事や、他害行為も段々減ってきています。

これからも色んな困った場面に出会うでしょうが、色んな事が相談でき、本人の問題行動に過剰に反応せず、冷静に対応してくれるばるは、私達親子にはなくてはならない居場所になってます。

★百舌鳥支援学校 小学部5年の男子（重度知的障害）の保護者

息子は、小5の12月より「ぼんたの家」の活動に参加させてもらっています。地域ののびのびルームでも機嫌よく過ごしていますが、「のびのび」は1～3年生のルームで、周りは低学年のお友だちばかり…。また、中学部になると、のびはまったく使えなくなるわけで、その準備段階として、週1回の参加からスタートしました。今までは「学校～のび」の毎日でしたが、「学校～のび」「学校～ぼんた」「のび+おべんとう（土曜日）」と、バリエーションゆたかになって、今日はナニ？とちゃんとカレンダーを確認して、ぼんたバッグ・のび連絡帳を持ってくるようになりました。

ぼんたでは、ヒマになると、イランこととして注意喚起(ー;) スタッフの「コラ！」を期待しているようです。「〇ちゃんはお手伝い」で役立つことをするのがいいかも何かしてもらおうように考えてみますね～って、スタッフの方から提案いただきました。「こんなことして困ります！」ってことじゃなく、「こんなふうにしてみようかな～」という考えがフツーにあるのがナニより魅力のばる活動です。

これからもよろしく願いいたします。

★百舌鳥支援学校 中学部3年の男子（重度自閉症）の保護者

地域の小学校から百舌鳥支援学校の中学部に入学。中1から『ばる』に参加しています。初めころは、なかなか自分の意思を伝えることができず、スタッフさんが自分の気持ちを察してくれるのを待っていたり、先輩のお兄さんやお姉さんが怖くてトイレにこもったりすることもありましたが、今では、すっかり頼もしいお兄さんになりました。活動時間の長い日には『自分でおやつを買う』と決め、前日夜には貯金箱からお金を出して準備をしています。最近では、翌朝食べる「メロンパン」を自分で買ってくることも！家ではほとんどの時間を母と過ごし、ゲームやテレビが多くなりがちですが、仲間と公共のバスで下校し、ゆるやかな集団活動の中で、マイペースに過ごすことの出来る『ばる』は息子にとって大切な時間となっています。

★泉北高等支援学校の1年生の女子（最重度自閉症）の保護者

娘は、放課後クラブばるを小5の時から利用しています。発語のない子なので、利用したばかり頃は、自分の意思をスタッフになかなか伝える事ができず、大変な事も多々ありましたが、スタッフの根気強いサポートのおかげで、今では、スタッフが「わかった、わかったから」という言葉が常に聞こえるくらい呼びかけの鬼(笑)と化している娘です。また、高校生グループでの活動では、それぞれが好きな事をしているようでも、しっかり友人を意識している姿も見られ、親が知らない一面もありで、毎回スタッフからの報告書を楽しみにしています♪娘にとっての放課後クラブは、今や大切な生活の一部になっています。高校卒業まで、思い切り楽しい放課後を過ごしてほしいなと願っています♪

★泉北高等支援学校の2年生の女子（重度自閉症）の保護者

この一年も高校生らしい活動を体験させてもらいました。夏休みは、作業所にみんなで行ってお仕事体験させてもらったり、カラオケにいたり、クッキングでカレーを作ったり、充実した夏休みでした。泉北支援からぷらすのいえに電車で帰ってくるのに、ドキドキした一年目とは違い、女の子たちは男の子たちが寄り道しそうなのをうまく誘導しながら帰ってきてると聞き、この一年も高校生らしく、頼もしくなったなあ、母として嬉しい報告を聞いた一年でした。



ばるは、ぴーす会員以外でも誰でも参加可能なグループです。

小学4年生以上の障がい児の「グループ外出の支援」です。お母さんから離れて、お友達と外出！グループは、年齢や障がい程度に合わせて構成。計画から報告までの支援をぴーすの支援センターでやってます。

平成21年度は、軽度知的障がいの中1・中2チーム（ぴっぴ2）、重度知的障がいの小4・小6中1チーム（ぴっぴ5）、軽度知的障がいの高校生チーム（ぴっぴ6）の3つが、それぞれ月1回、土日に活動をしています。

平成21年度は

★ぴっぴ2 軽度知的障がいの中1、中2チーム

実施回数： 12回（年間延べ参加数71名）

行き先：海遊館、大阪城公園、ドリーム21、アミティ舞洲、咲くやこの花館など

★ぴっぴ5 重度知的障がいの小4・小6・中1チーム

実施回数： 7回（年間延べ参加数38名）

行き先：ハーベストの丘、インスタントラーメン発明記念館、キッズプラザ、なにわの海の時空館、ビッグバンなど

★ぴっぴ6 軽度知的障がいの高校生グループ

実施回数： 12回（年間延べ参加数89名）

行き先：信貴山のどか村、堺浜シーサイドステージ、ワッハ上方、関西国際空港、大阪市立クラフトパークなど

3グループの年間延べ参加総数198名

【活動の様子】

ぴっぴ2は軽度発達障がい児4名（中学2年生2名と中学1年生2名）のグループです。

ボランティア2名に介助してもらいながらの外出。みんな、この日を楽しみにしています。活動は毎回、リーダーを決め、リーダーが選んだ外出先に行きます。リーダーの好みで、体を動かす外での活動や博物館見学など、行き先はバラエティーに富んだものになっています。外出から帰って起点の「ぼんたの家」でみんなでゲームをしたり、本を読んだりするのも恒例。時には、ゲームをするために活動を早めに切り上げて帰ってくることもあります。活動を通して、相手に合わせたり、交通機関のルールやマナーを学んでいます。

今年度は、メンバー1名が退会し、新たに1名が参加となり、新メンバーでのスタートとなりました。新メンバーも最初は少し緊張気味の様子でしたが、回を重ねる毎に楽しんでいる様子がみられるようになりました。

ぴっぴの活動としては、1番長い期間活動しているグループだけに、多少のトラブルや変更などは、へっちゃら。

また、お互いを思いやる気持ちも育っていて、ほんとに頼もしいグループです。

ぴっぴ5は、小4・小6・中1の重度の男子3人グループでスタート。途中1名の退会となり、活動としては12月で終了となりました。このグループは、前年まで2組での活動で、平成21年度に3組でのスタート。新メンバーが入った事で最初は戸惑う事もありましたが、友人を意識しているがゆえの戸惑いのような感じでした。途中1名退会となり、グループ活動としては中止という事となりましたが、最後の活動日のA君はとても残念そうで、この活動を楽しみにしていたくれた事を嬉しく思う反面、終わってしまう事が申し訳なく思うコーディネーターでした。

ぴっぴ6は、高校生の男子3名、女子3名の6人グループ。6人中5人が同じ学校なので、学校で行き先を相談してきていましたが、夏ごろからその事に気を取られ、先生方から「集中しなさい」と叱られたり、意見の対立が出始め、グループの雰囲気が陰悪になってしまいました。これではいけない！と活動日以外に話し合いを持ったりすることもありました。話し合いをする中で、お互いを認め合う気持ちや理解するという気持ちも生まれ、徐々に元の仲のいいグループに戻って行きました。さすがに高校生♪

3月にメンバーの内の2名が卒業。社会人として旅立つことになりグループの活動も終了となりました。終了後、メンバーがコーディネーターに新生活の様子を知らせてくれ、とてもうれしかったです。これからもがんばって！ ♪



ぴっぴは、ぴーす会員以外でも、誰でも利用できるグループです。

e-AT（電子情報支援技術）を用いた肢体／知的重複障がい児の余暇活動支援をしています。身体の不自由さを e-AT 利用で補い、人に動かされるのではなく、自分の意志でおもちゃを動かす/音楽を聴くなど様々な活動をしています。

★平成21年度は

実施回数：11回（年間延べ参加者数119名）

実施場所：堺支援学校内 同窓会館

百舌鳥支援学校・堺支援学校の学齢期の重複障害のある児童が、おおむね月に一度、水曜日の放課後に活動しています。子供の遊ぶ姿を通して、保護者は支援機器の利用やコミュニケーションの支援について学んでいます。

★開催時の様子より

中学部になってから、授業終了後3時過ぎから参加するようになったNくん。開催の場所が変わったので、落ち着けるように、2m四方のマットを用意。混乱することなくぷらレールで遊んですごしました。

同じく、3時過ぎからAちゃんも参加。電動車椅子で屋外を散歩。広範囲をひとりであちこち動き回っていました。バックや回転もとてもうまくできるようになりました。

S君は、今まで関心のなかったおもちゃ「プーさんの蝶々取り」の落ちてくる蝶々をよく観ていました。あんなに乗っていた電動自動車は、すぐに降りたがり、飽きた様子でした。パソコンゲーム（風船爆発）、シャボン玉は声を出して笑い大喜びでした。退屈なときは床をたたいて刺激を入れる様子がみられたので、退屈しないよう次回までに、好きな遊びを探ることになりました。



Mくんは、ディスコライトとスイッチを混同してもて遊ぶので、ディスコライトを置いておき、スイッチをスタッフがタイミングをみて差出し、モデリング。数回の後、因果関係をつかんだ様子。「スイッチを押す→ライトを観る→自分で拍手」を何度も繰り返す。長時間集中して遊びました。その後はパソコン、電動自動車と立て続けによく遊びました。特に電動自動車は、S君にかわって、現在はT君の独占状態です。学校内の敷地を縦横無尽に走っています。



見学に来てくれていたN君は、シャボン玉の動きに連れて、追視する力がありおおきなシャボン玉ができる笑顔。ほか、ドミノトラックであそびました。パソコンゲームなど2次元よりも、3次元のリアルでダイナミックな変化を追視しやすい遊びを好むようです。次回はディスコライトを用意する予定です。

★ぷらっしゅ保護者の勉強会より

重複障がいの子どもの暮らしの支援において大切にしたいことについて、ぴーすの支援センター大西さんにお話をして頂きました。参加者はぷらっしゅのメンバーとそのお友達でした。

前半はおもしろいICFのお話で、参加者の方達は「目からうろこ」体験をされたようでした。一様に言われていたのは「初めて聴いた、知った考え方」ということでした。

後半はウェルドニヒ・ホフマン病（乳児脊髄（せきずい）性筋委縮症）で全身が動かない浦野晃一さんと、意思伝達装置のビデオを観せていただきながら、障害支援とは「環境（人も含む）を改善していくこと」であると教えていただきました。

ぷらっしゅは、ぴーす会員以外でも利用できるグループです。

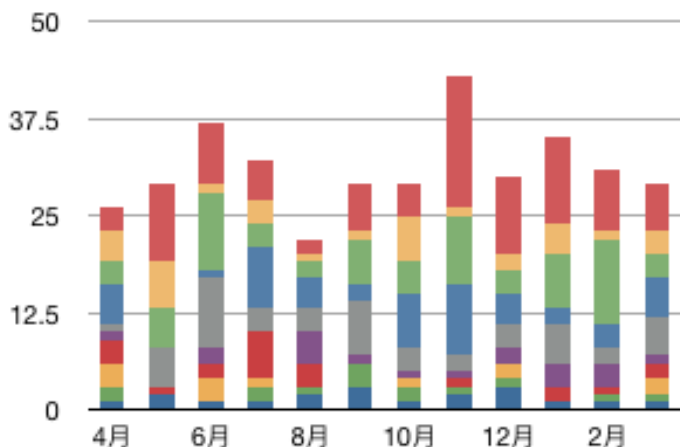
ぴーすは、障がい児やその家族の暮らしに役立つ情報を、メール(パソコンや携帯)などを利用して提供しています。平成 21 年度に提供した情報は以下の通りです。

1：メールニュース『ふぁにい』月曜～金曜までの毎日、携帯やパソコンへのメールニュースを配信

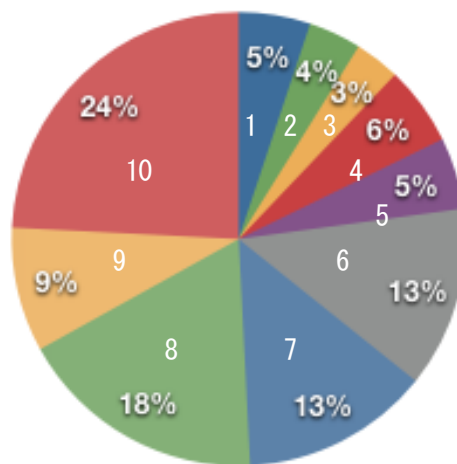
▼平成 21 年度総配信数：375 件 (期間 H 21 年 4 月～H 22 年 3 月 月平均配信数 31 件)

No.	カテゴリー	記事内容(抜粋)													合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1	福祉行政制度	ご存知ですか？日常生活用具の給付／障害福祉のしおり最新版 中学卒業後の進路について／おおさか防災ネットメールのご紹介													19
2	民間の社会資源	大阪ふれあいおりがみのご紹介／心身障害者総合保証制度 知的障害をもつ人々の大学校のご紹介／													14
3	お得情報/障害割引情報	総務省：地上デジタル支援のご案内／みさき公園割引情報 障害者手帳割引ガイド／携帯電話の障害者手帳手帳割引の拡充													12
4	余暇お出かけ先施設情報	無料で一日遊べる施設と公園／しあわせの村リニューアル情報 バリアフリープラザのご案内／アウトサイダーアートに出会うカフェ													21
5	余暇エンタメ情報	発達障がいを支援する映画『ぼくはうみがみたくなりました』上映と講演和太鼓コンサートのご案内／麦の会チャリティ寄席													19
6	余暇文化活動	障害者スキー講習会／スケート教室／水泳記録会／トランポリンなど 体育遊びのご案内／お菓子作り体験教室／リズムで遊ぼう♪													48
7	余暇イベント	週末クリスマスイベント情報／電車の好きな子でかけませんか～♪ チャリティーバザールのお知らせ／バルーンアートがやってくる													50
8	セミナー／講演会／学習会	露の団六さん講演会／性教育セミナーin堺のお知らせ 大阪府社会福祉大会／発達障害公開フォーラムのご案内													66
9	書籍／番組／モノなどの紹介	携帯電話で学習支援／自閉症の力をいかす会社のご紹介 DVD「学校検診でできる工夫」／啓発アニメ「桃色クレヨン」のご紹介													33
10	ぴーすからのお知らせ	サポートブック作成会／新刊の入荷情報／譲ります！電子オルガン きょうだい児あそぼう会／イエローシートキャンペーンのお願い													90
合計		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	372	
		26	29	37	32	22	29	29	43	30	35	31	29		

ふぁにい2009年度月別配信数



年間配信内容の割合





そのほか、記事内容で印象的だったのはある経済番組の紹介。紹介することになったいきさつは利用会員さんの何気ない一言でした。実は50年あまり前から障害のある人を雇っている会社のドラマの放送で、それを鳩山首相もご覧になっていたようで、所信表明で述べられたという事後の出来事もドラマティックでした。

〈あなたはなぜ働くのですか？～日本一優しい会社が問い続けた50年～〉

<http://www.tv-tokyo.co.jp/rubicon/backnumber/091015.html>

ふぁにいは、こんな皆さんの「なにげない一言を共有すること」ができるホットな仕組みであると、改めて認識できた本年度の活動でした。来年度は、発信のみならず、双方向の情報共有を目指します。

2：ぴーすのメールマガジン

毎月末にパソコンで配信している会員向けメールマガジン（一部の人にはFAXや郵送）です。

平成21年度は

配信回数：12本（期間H21年4月～H22年3月）

配信内容：1ヶ月のぴーすの活動報告、翌週以降のぴーすが取り組む活動の情報、余暇活動グループのようす、おすすめ書籍やグッズの紹介、スタッフコラム（スタッフの子育て日記のようなもの）

3：ぴーすのブログ <http://sakai-comcom.net/p-s/>



2009年1月7日 開設

ぴーすの各事業の開催情報や活動報告、スタッフの様子などをリアルタイムに発信しています。

本年度も各事業の活動報告をリアルに、しかもそれぞれの事業担当スタッフが直接発信できる媒体として活発に利用いたしました。

今後はコメントの活用が活発になることで、会員とのダイレクトなやり取りができればと思います。

4：ぴーすのホームページ <http://p-s-sakai.net/>



2009年1月27日よりリニューアルを開始

ぴーすの基本情報を掲載しています。利用会員の皆さんがほしい情報に簡単に早くアクセスできるようデザインをリニューアルしました。

会員の便宜をはかるために、セミナー、利用会員申し込みなどそれぞれに専用の申し込みページを作成したりまた、受付中のセミナー情報を一括掲載するなど工夫をしました。

リニューアル後、ホームページからの支援グッズの販売申し込みや会員の入会申し込みが増えました。

また、堺市／大阪府以外の他府県の方からの問い合わせも多くなりました。検索によって、閲覧されているようです。今後もさらに、ウェブアクセサビリティの向上を目指し、リニューアルを続けていく予定です。

ぴーすは、障がい支援に関するセミナーや勉強会を企画制作しています。
 また障がいを広く啓発するためのプロジェクトを継続実施しており、平成
 21年度の活動は以下の通りとなりました。



1：幼児知的障がい児の母親対象『連続勉強会』

我が子の障がいに気づいて間がない幼児期のお母さん達を対象に、少し先輩の
 小学生母親が講師役をつとめ、体験談・失敗談を交えつつ、共感・励ましを伝え、
 生活の工夫・親の心構えを紹介することにより、少しでも早く、我が子への愛情・
 子育ての楽しさ・将来への明るい希望を取り戻してもらうことを目的に実施してい
 る勉強会です。

平成21年度は

1	5月26日(火) 福祉会館第2会議室 28名参加	「子育て、こんな感じでやっています！」(しんどいこと、ためこんでませんか?) ・講師4名の自己紹介を兼ね、幼児期のことなど体験談をお話。 ビデオにて、今の子どもの様子を紹介。
2	7月1日(水) 福祉会館第2会議室 31名参加	進路について part1 (就園編 ~おしっこ・着替え etc~) ・わが子の進路について、就園編として通園施設・保育所・幼稚園などの情報提供。 先輩母たちへインタビュー形式での、就園体験談の披露。 後半は、就園にまつわる悩み(身辺自立)などを通して子ども目線で考えることの 大切さを学ぶ。
3	9月29日(火) 福祉会館第3会議室 27名参加	進路について part2 (就学編 ~睡眠・食事 etc~) ・4月に開校した、上神谷支援学校の様子を紹介。地域の小学校・百舌鳥支援学校の 様子も紹介しながら、進路を決める際の心構えなどをお話。 後半は、生活リズムの基本「食事・睡眠」悩みについて頑張りすぎない生活のコツ を伝える。
4	10月27日(火) 福祉会館第3会議室 12名参加	グループトークをしよう! ~障がい児の感覚について~ ・2つのグループに分かれて、グループトーク。 後半は、障がい児の感覚について学ぶ。
5	11月13日(金) 福祉会館第2会議室 16名参加	知的障がいってなあに? ~実際に体験してみよう~ ・ぴーすの小田多佳子理事長による、ワークショップを開催。 子どもたちの世界を、実際に体験。
6	12月4日(金) 福祉会館第1会議室 12名参加	ことばとコミュニケーション ・子どもの口から出てくる「ことば」にまつわる苦い教訓をお話し、コミュニケーシ ョンとはなんだろう?ということ学ぶ。 ぴーすの支援センター・大西から「プロ」のとしての貴重なアドバイス。
7	1月29日(金) 福祉会館第3会議室 18名参加	参加者さんからの実践報告 ~こんなことやってみました~ ・3名の受講者の子どもへの具体的支援をぴーすの支援センターと協力し実施する。 ・受講者の方から今回の支援から感じたことを報告してもらう。 ・スタッフが実際に家庭で使っている、支援グッズの展示。
8	2月26日(金) 福祉会館第3会議室 17名参加	障がい児のいる家族 ・特別講師として連勉スタッフ4名。 ・障がい児の兄弟や兄妹、父親、祖父母などの関わり方・障がい受容の事について。

年間参加総数 161名

★参加者の感想より抜粋★

第1回「子育てこんなかんじでやってます！～しんどいこと、ためこんでませんか？感想

- ・幼児期からの子育てについて詳しくお話されていて、とても聞き入りました。共感できることも多く、日々の育児を見直すこともでき、とても有意義な時間となりました。
- ・ビデオでは、あんな風に成長してくれるようになったらいいなあ、と思いました。

第2回「進路について part1 就園編 ～おしっこ・着替え etc～」感想

- ・先輩のお母さんから就園や身の回りのことを、体験談を交えてお話していただき共感することも多く、参考になりました。子どもの目線に立って、今何に困っているのか？・どう工夫したらいいのか？もう一度考えてみたいと思います。
- ・「うんうん」「そうそう」と思うことがたくさんありました。進路のことについても、「同じように悩んでいたんだ、今、悩んでいることがおかしいと思っていたけど、悩んでいいんだ。いつか解決するし、子どものペースで考えていいんだ。」と安心しました。

第3回「進路について part2 就学編 ～睡眠・食事 etc～」感想

- ・進路についてのお話、とても参考になりました。まだ年中ですが、あと一年の間にいろいろ先生や他のお母さん方のお話を聞いて相談の乗ってもらったりして決めていきたいと思います。
- ・子どもの成長を信じて、あきらめない・無理をさせない・・・これから、いっぱい悩んでみたいと思います。
- ・うちの子もすごい偏食で悩んでいます。でも、今日の話聞いて私だけじゃないんだと気持ちが少し楽になりました。

第4回「グループトークをしよう！ ～障がい児の感覚について～」感想

- ・グループトークの中で他の方と共通しているところがたくさんあり、あっという間に時間が過ぎた気がしました。つい楽しんでいる遊びをこちらの都合でやめさせてしまうのですが、見方を変え一緒に遊ぶのもいいかもと思いました。
- ・「なんでこんなことするんやろ？」と思うことがありましたが、感覚の問題もあるんだなあ納得。
- これを期に、何が「快」で何が「不快」なのか？見つけてあげたいなあ、と思いました。
- ・とてもよかったです。今、子どもがしていることを、より肯定的に見てあげようと努力できそうです。

第5回「障がいってなあに？ ～実際に体験してみましよう～」感想

- ・今日は、とても楽しく勉強になりました。小田さんのお話は、心を軽くして下さいます。実際に体験、なかなか出来ないのととても有意義でした。頭ではわかっているつもりだけど・・・つい自分の都合で言ったり、やったりしていることが気付かずにあって、そのたった一言で、彼のやる気をダウンさせていたかも？と反省しました。
- ・もうすべてが衝撃でした。こんな感覚だったのか・・・と。今日の体験で、私自身が何か変わった気がします。

第6回「ことばとコミュニケーション」感想

- ・つつい母の思い込みや、決めつけで動いていたり、子どもに伝えずに「ま、いいか」となったり、子どもの気持ちを後回しにして動いていた、と気づかされました。毎回、いろんな気付きを発見できるので、参加していてとても楽しいです。「伝えたいネタ」を増やしてあげたいなあ、と感じます。
- ・息子にとって過ごしやすい環境を整えてあげたいと思います。
- ことばだけでなく、息子からのサインを見逃さないようにしたいです。

第7回「参加者さんからの実践報告 ～こんなことやってみました～」感想

- ・実践報告では、いろんな方法を聞いてお徳感があり、楽しかったです。
- 子どもが知りたいことは何か？必要としているものは何か？を一番考えて様子を見ていきたいです。
- ・工夫できそうなこと、何かひとつでもやってみようと思うきっかけになりました。

第8回「障がい児のいる家族」感想

- ・共感することが多く、うんうんと頷いたり思わず涙ぐんだり・・・と今日もいいお話をたくさん聞けました。自分の家庭のことをさらけ出すのは、とても勇気がいると思います。私はまだ、触れられたくないということもあったりなのでそう思うのですが・・・皆さんのお話「また頑張ろう」「自分だけが不幸なんて思うのは、やめよう」と前向きな気持ちを頂いています。ありがとうございます。
- ・兄弟姉妹の話は一人っ子なのでピンとこなかったですが、二人目を考えているので良い部分・難しい部分を参考にさせていただきます。



専門家の先生がお話する「大きな講演会」ではなく、もっと身近なテーマで暮らしに即！つながる勉強などをするため、ぴーすでは少人数のセミナーを頻繁に開催しています。少人数であることが和気あいあいと話しやすいムードを作りだし好評です。また、時間をかけて様々な支援グッズなどを丁寧に作り上げる「製作会」も好評です。

平成 21 年度は

実施回数：28回（年間参加総数 145名）

実施内容：製作会「子どもを紹介するプリント」	3名	「ソーシャルストーリー」	2名
「サポートブック」	4名	「コミュニケーションサンプル」	13名
「ライフプラン」	6名		

相談会「なんでも相談会」	2名		

学習会「DS あのねを使って暮らす」	24名	「困った行動・パニックの対応」	3名
「堺の福祉制度を知ろう」	5名	「障がい児の性教育について」	6名
「障がい児の防災を学ぼう」	2名	「障がい児の快適な住まいについて」	9名
「ヘルパーさんのつかい方」	5名	「放課後の過ごし方」	5名
「障がい児のしつけについて」	9名	「コミュニケーション支援」	4名
「スケジュールを上手につかおう」	6名		

座談会「発達障がいのある子の学習」	14名	「新学期の座談会」	5名
「高機能発達障害の座談会」	8名	「どうする？中学進学」	1名
「シングルマザーのおしゃべり会」	6名	「きょうだいについて語ろう」	3名

★ 参加者の感想より★

～「サポートブックを作ろう」に参加のお母さん～

- ・自分で作って見たことはありましたが、どうしても親の願いが入りすぎて「～して下さい」ばかりで、クドクド長文になっていましたが、アドバイスいただいたおかげで、端的に伝えることができるものが仕上がりました。

～「ライフプラン」に参加のお母さん～

- ・知らなかった情報をいっぱい聞いてよかったです。まだ小さいので実感がないと思っていましたが、やっぱりすぐに大人になるし、その時、自分に情報があれば今後役に立てると思うので、勉強させてもらってよかったです。

～「性教育について」に参加のお母さん～

- ・具体的にお話が聞いて参考になりました。どうしても、行動の部分だけを取り上げて考えてしまうのですが、生活面から広く見直していかなければと思っています。ありがとうございました。

～「あのね♪DSを使って暮らす」に参加されたお母さん～

- ・スケジュール登録やことばリストの使い方も勉強になりました。子どもが使ってみたいと思えば使いこなせると思います。子どもとのコミュニケーションの幅を広げられるようになりたいと思います。

～「障がい児のしつけ」に参加のお母さん～

- ・すごくいいセミナーでした。「あまりガンバラず、少しガンバって…」との話を聞いて、心がスーッとした気持ちになりました。買い物に行くときは子供用のさいふを持たせて練習させてあげたいと思います。

～「ソーシャルストーリー」に参加のお母さん～

- ・どうしても否定的なことばを使い怒ってしまいがちになる毎日でしたが、今日のセミナーで書いてみたストーリーは、本当に毎日のことで否定的なことばを使わず肯定的に考えていくことが難しかったです。でも、日常をよりよくしたいと言う気持ちにはぴったりで、ぜひ使っていこうと思います。なにかにつけて「わからない…」という娘ですが、おはなし調なので、これならわかってくれそうな気がします。

～「発達障がいのある子の学習について」に参加のお母さん～

- ・勉強のこと以外でも日常の悩みなど他のお母さんたちとのしくお話できてよかったです。日々悩んでいた勉強のことも、私の気持ちの持ち方や見直すべき点もわかって、早速今日から実践してみようと思います。



ぴーすでは、障がい児の母達が普段の暮らし・子育てに役立つ知識を習得するため、講演会やセミナーを開催しています。平成21年度の開催は下記の通りです。

実施回数: 4回 (年間参加総数 339名)

実施内容: 1・きょうだい児 あつまれ～！あそぼう会 (H21/12/27)
 2・講演会: 障がい児のきょうだいの気持ち・想い～きょうだい支援を広めよう (H22/2/14・15)
 3・なるほど! 障がい児の感覚～我が子の「謎・不思議さ」への答えが見つかる～ (H22/3/3)
 4・きょうだい児 あつまれ～！あそぼう会 (H22/3/31)

1、きょうだい児 あつまれ～！クリスマスあそぼう会

独立行政法人 福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」助成事業

日時: 平成21年12月27日(日) 15:00～16:00

場所: 堺市総合福祉会館3階 プレイルーム 参加: 13名

★参加者の感想★

- ・子どもの表情がとても生き生きしていました。最近、娘に対して怒ってばかりでしたが「イライラのしずめ方」を参考にすると、子どもに教えられました。
- ・親にも支援してくれる方・同じ悩みを話せる仲間が必要なのと同時に、障がいを持つきょうだいがいる子どもたちにも支援してくれる(話を聞いてくれる)大人や同じ悩みを持つ仲間などが必要なのでは…と思っていたので、ちょうど思春期に向かう子どもにとっては、とてもいい機会だったと思います。本人の気持ちを大切にしつつ、今後も参加できたらと思います。



2、講演会「障がい児のきょうだいの気持ち・想い～きょうだい支援を広めよう」

独立行政法人 福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」助成事業

平成22年2月14日(日) 14:30～16:30 堺市民会館 小集会室

平成22年2月15日(月) 10:30～12:30 堺市産業振興センター(旧じばしん南大阪) セミナー室

講師: 有馬靖子先生 参加者両日あわせて146名

★参加者の感想★

- ・私には、知的障がいを持ったきょうだいがいます。今回お話をお聞きして、今まで私が思ってきた気持ちや考えを、他にも持った人がいることに少し安心しました。これからも、前向きにきょうだいと向き合っていきたいと思います。
- ・きょうだいの悩み・・・思い当たるふしがたくさんありました。それに加えて、こんなこともあるのだと気づかせていただいてありがとうございました。1対1の時間を持つたり、話を聞くなどやっていきたいと思っています。
- ・“障がい”に親も周囲もサポートする側も一生懸命取り組もうとしています。その背後で自分自身の存在価値を危うくされている「きょうだい」がいることを知りました。私は、支援する側ですが、親御さんとの信頼関係を築くことには力を注いできましたが「きょうだい」にはなかなか注目できずにいました。両親たちにも働きかけながら、“家族の輪(和)”の大切さや、子どもそれぞれの価値を認め、ちゃんとそれぞれ愛していくことのお手伝いができればいいなと思いました。
- ・初めて、きょうだいについての講演会に参加しました。毎日クタクタできょうだい児の気持ちまできちんと考えていませんでした。話を聞いて、親が気付けない気持ちに少しでも気付いて、そしてそれについての対策も教えていただくことができてよかったです。障がい児のためのセミナーはたくさんあるのに、きょうだい児のはめったにないですね。これからは、きょうだい児のことも考えていかなければ…と思いました。
- ・“親は半生、きょうだいは一生…”このことばが身にしみました。そうだ、私は生まれてきた時から、なに不自由なく・心配なく人生を楽しんで来れた。けど、きょうだいは一生不安を感じつつ人生を歩んでいくのかも…なんて、かわいそう過ぎる!と、改めてそう感じました。障がいを持つ姉を妹に任せる気持ちはありませんが、きちんと話して安心させてやりたいと思いました。もっと自由に羽ばたいて欲しいと以前より強く思うようになりました。

堺市市民活動支援基金（子どもの健全育成の活動分野）補助事業

前出の連続勉強会の「特別講演会」として実施

日 時：平成22年3月3日（水）10:30～12:30 堺市民会館 4F 大集会室

講 師：太田篤志氏 参加者175名

★参加者の感想★

- ・ 昨年もお話を聞かせていただきましたが、今年もたいへん勉強になりました。どうしても見返りや効果を求めてしまっていた自分に気がつきました。もっと本人が楽しんでいることを大事にしたいと思いました。
- ・ 子どもに、「いつもどうしてこんなことするの？だめでしょ！」という感じで対応していたので、それを変えていこうという気持ちになりました。どう視点を変えていけばいいのかも、わかりやすくお話して下さったので、とてもよかったです！ありがとうございました。
- ・ 大変おもしろい興味深い内容で、2時間があつという間に過ぎました。これまでも感覚統合の勉強会に参加してきましたが、これほど楽しく、自分の理解が深まった講演会はありませんでした。今後の自分の療育の仕事に大きく影響を与えて下さった感じがします。

4、きょうだい児集まれ～遊ぼう会！

独立行政法人 福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」助成事業

日時：平成22年3月31日（水）

場所：堺市総合福祉会館3階 プレイルーム 参加者：5名

★参加者の感想★

- ・ 本人の感想：きょうは、お友だちと仲よくできて、とてもたのしかったです。次回もワークショップに行きたいです。できればもっとお友だちとあそびたいです。
- ・ 母の感想：昨年のクリスマスイベントは「行かない…」だったのに、どういう心境の変化か、今回は「行ってもいいよ～」でした。学校でお友だちにからかわれることも多く、プンプンしながら帰宅する日々。本人なりに、人との付き合い方を模索しているタイミングで このワークショップがあつたんでしょうか。肩ひじはらなくてもいいから、自然体でステキな仲間を見つけてくれたらなと思っています。このきょうだい児の取組みが、ずっと続いてくれたらな～と母は思っています。



※関連成果物

上記、独立行政法人 福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」より助成を受けた事業の中で、きょうだいをテーマにした印刷成果物を作成しました。平成21年度は時間がなく、作成だけで終わっていますので、平成22年度は各方面への配布などを実施する予定です。

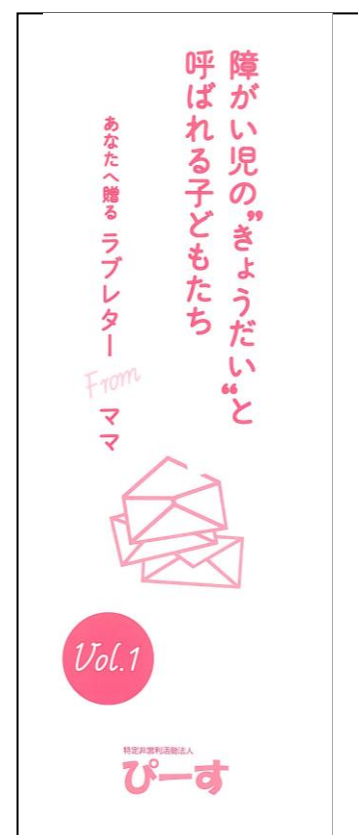
‘障がい児のきょうだい’

と呼ばれるあなたへ贈るラブレター

from ママ

幼少時から、常に障がい児の強い個性に、良きにつけ悪きにつけ影響を受けて育つきょうだい。母は常にそのきょうだいを愛しつつも「十分〇〇してやれない」などの気持ちを持っています。が多忙な子育ての中、それを表現する暇も、余裕もない・・・。

そんな「本当の気持ちをうまく伝え合えない母ときょうだい」に、焦点をあてて・・・作ったラブレター。メッセージはすべて、作：本物の障がい児の母です。



【支援学校サマーサポート事業】

支援学校在籍児の夏休みの取り組み「支援学校サマーサポート事業」。堺市教育委員会が平成21年度の初めて実施した委託事業です。その受託事業所にびーすが選ばれ、以下のような内容を実施しました。

びーすももちろん初めての事業で、戸惑うことばかりでしたが、暑い夏の最中、支援学校に素敵な笑顔があふれた8月…、素敵な思い出がたくさんできた1ヶ月でした。

- 参加者：百舌鳥支援学校・上神谷支援学校の小1～小6（総実数：58名）
- 実施日時：8月3日～8月26日（12～16日は盆休み、上神谷は25日終了）
- 実施場所：百舌鳥支援学校・主に図書室 上神谷支援学校・主に多目的室
- 実施形態：3クールに分けて実施
第1クール（8/3～8/7） 第2クール（8/10～8/19） 第3クール（8/20～8/26）
- 参加人数：定員1クール10名 百舌鳥支援30名、上神谷支援28名参加 計58名
- 実施内容：着替え・身支度→散歩→個別学習→みんなタイム→昼食→水遊びなど→帰り支度
個々の状態に応じ、上記内容から個別にスケジュールを作成 自由なムードを重視
- プログラム：みんなタイムでの内容 ※（ ）内は協力団体
和太鼓サークル（どん舞）
体育遊び（NPO みんなのWell.net 及び 陽子&山内先生）
おはなし会（絵本サークル すずらん）
ムーブメント（ママッピー—OSAKA）
音楽遊び（ドロップス）
人形劇（星子さん）
手品&バルーン（池田さん）
- 支援体制：子ども10：支援者7～10名を配置



★担当職員からの報告★

・毎日見ていると、子どもたちがどんどん自分で遊びを見つけて、よく遊ぶようになっていくのがわかり、その様子を見るのがとても楽しかったです。トンネルを小さな部屋の入り口にくっつけて秘密基地を作ったり、区切られたコーナーでお布団にくるまってほっこりしていたり、好きなおもちゃの空き箱をスタッフに持って行って「出して！」と伝えて長い時間集中して、遊んでいたりと♪ 初日には待ちきれなかったビニールプールの時間がスケジュールを確認して、楽しみにしながら待ってくれるようになったり♪ そんな子どもたちに初対面同士のスタッフさんたちが良いチームワークで寄り添い見守り、とても心地良い雰囲気でした。

学校の先生方からも子どもの様子を観にきてくださったり、日課でする教材を提供して下さったりと応援をいただきました。保護者の皆さんも送迎や荷物準備など大変だったのではと思いますが、「サマーサポート事業があっよかった」とおっしゃっていました。

私も息子の夏休みの過ごし方に苦勞している保護者の一人ですので、その意味の深さが身に染みてわかります。障がいのある子どもたちの安全で健康な夏休みのためにもこの事業がこれからも継続／発展して欲しいなと思います。

★保護者の感想★

- ・はじめはなにをするのかわからず不安そうでしたが、楽しく参加させていただくことができました。スケジュールを伝えてもらって見通しがもてたり、プールやトランポリンの活動を選択できたり、お気に入りの遊びを見つけ、安心して楽しめたようです。
- ・場所が本人の通う学校なので、少し心配でしたが、敷物や貼紙で視覚的にとてもわかりやすく、スムーズに行けました。親も子ども、とても安心できる場所・充実感の持てる所でとてもよかったです。
- ・初日は、いつもの学校なのに出入り口は違うし、自分の教室にも行かずに図書室に入るし…、笑顔で待ち受けてくれるのは、先生じゃなくて、知らない大人たちだし…で、少々戸惑っていましたが、学校で使ってるスケジュールを使ってる朝の会など、本人にもわかりやすく提示していただけたので、見通しが持てると落ち着いて過ごせました。

1：発達障がい啓発チーム プリズム

プリズムは、発達障がいを多くの人に広く・正しく理解してもらうために、本人・保護者・関係者が「一人一人、力を合わせ、草の根運動的に啓発しよう」というチームで、平成17年に結成をしました。これまでは「本人・家族・関係者、どなたでも入会OK、会費等も一切不要。活動内容は、啓発講演会やセミナー等の企画・実施、印刷物の作成および配布に協力してもらう。また情報発信として「プリズム通信」をメールでお届けする。」というものでした。

しかしここ数年、発達障がいは「発達障害者支援法の施行」があり、各メディアでも頻繁に取り上げられるようになりました。平成21年度の活動を考える際、ぴーすは「プリズム活動ははたして啓発のみでよいのか？」という課題に突きあたりました。様々な意見が出る中で、ぴーすとしては「啓発から一歩先へ・・・」ということを目標に、平成21年度は以下の2つの取り組みを実施しました。

1：発達障がいのある子どもを対象とした取り組み＝コミュニケーションをテーマにしたワークショップ

2：発達障がいのある子を育てる母達の座談会＝小さなセミナーにて、定期的開催（14ページ参照）

以下、その詳細を報告します。

平成21年度は

★軽度発達障がいのある子どものワークショップ

（制作協力：NPO法人 えんばわめんと堺）

平成21年8月20日（木） 堺市総合福祉会館 3F プレイルーム（参加者：小1～中3の15名）

テーマ 「相手も自分も大切にするための方法を考えましょう」



～参加者の感想～

- ・今回で3回目の参加となりました。前日まではすごく楽しみにしていたのに、当日になると「ワークショップ、お休みしていいかなあ～」と消極的でしたが、いざ部屋まで行くと、受付もそこそこに元気よく入室して行きました。活動中の様子もたくさん書いていただきよくわかりました。自分なりの考えも発表できたようで、びっくりです。いい笑顔で出てきました。本人に聞くと「楽しかった!」「また行く?」「うん!!」って言っていました。

★軽度発達障がいのある子どものワークショップ（制作協力：NPO法人 えんばわめんと堺）

平成21年12月27日（日） 堺市総合福祉会館 3F プレイルーム（参加者：小1～中3の13名）

テーマ 「暴力の加害者にも被害者にもならないためにできることを考える」

～参加者の感想～

- ・なかなかグループで取組むことはこだわりが出たりして、うまくいかなくなることも多いのですが、ワークショップは、とても好きみたいなので安心できます。また次回を楽しみにしているようなので、ぜひ参加させていただきます。

★軽度発達障がいのある子どものワークショップ（制作協力：NPO法人 えんばわめんと堺）

平成22年3月31日（水） 堺市総合福祉会館 3F プレイルーム（参加者：小学生13名）

テーマ 「お互いが気持ちよくつながるために」

同時開催 「CAP(子どもへの暴力防止)プログラム」について」保護者向けセミナー

～参加者の感想～

- ・ワークショップ、思いっきり楽しんできたようです。中でのようすを読ませてもらって、状況がアタマに浮かんできました。学校では、支援学級ではハキハキ発言しているのに、クラスではモジモジ自信のないようすで、大人数の中では圧倒されているようです。ワークショップではどンドン発言し、みんなをリードしていたとのこと。これが〇〇の本物の姿なのかな～?と思いました。「次回も参加したい」に大きな〇をつけていました。次回も楽しみにしています。
- ・CAPのお話が聞けたことはとても有意義でした。今回のお話でCAPの理念がよくわかりました。子育てする上で自分の意識を見つめ直すきっかけになりました。子どもの権利を尊重し、その子の持っている力を引き出せるように関りたいと思いました。

昨今非常に注目されている「障がい者の防災」、ぴーすはそれを、当事者としての視線/立場から、行政・一般市民に向け「障がい児という災害時要援護者の存在」についての啓発しています。

平成21年度は、阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」(DRI)より研究員の方が、9月末にぴーす事務所に来所され、1月17日に15周年となる一連のイベント・セミナー・企画展・職員向けセミナーへの講師派遣等に参画することを依頼されました。その中の第8回 DRI 防災セミナー「防災対策のユニバーサルデザインにむけて」では、「防災分野のバリアフリーにむけて」がテーマのパネルディスカッションで、ぴーす理事長・小田が知的障害者分野を代表してパネリストとして発言させていただきました。身体障害・聴覚障害・視覚障害…と、兵庫県・神戸市の団体を代表する方達と並び、ただ一人「震災体験者ではない立場」での発言でしたし、コーディネーターを始めパネリスト全員は、いわば先進的な防災への取組みをなされている方ばかりで…。その中で、ぴーすの活動を取り上げていただいたことを改めて重く感じ、防災の最先端を行く取組みの中にいることを肌で感じる事ができた1年となりました。

【防災講演会・セミナー】

<ぴーす主催>

- ◆平成21年 9月25日 小さなセミナー「障がい児の防災を学ぼう」



<講師依頼>

- ◆平成21年 5月31日 名古屋・グループたんぼぼより
「障がい児者を持つ家族の防災について」講師：理事長 小田
- ◆平成21年 9月 5日 和歌山自閉症・発達障害研究会より
「大災害！発達障がい児をどう守る？」講師：理事長 小田
- ◆平成21年 9月14日 西区・浜寺石津校区いきいきサロンより 「災害に備えよう」講師：理事長 小田
- ◆平成21年11月23日 兵庫県「人と防災未来センター」より 第8回 DRI防災セミナー
「防災分野のバリアフリーにむけて」パネルディスカッション パネリスト：理事長 小田
- ◆平成21年11月28日 中区・ナイスネットより 「地震などの災害時対応について」講師：理事長 小田
- ◆平成22年 1月18日 百舌鳥支援学校中1のつどい 「障がい児者を持つ家族の防災について」講師：理事長 小田
- ◆平成22年 1月26日 五條市保健福祉センターより 「障がい児者を持つ家族の防災について」講師：理事長 小田

【企画展・メディア紹介ほか】

- ◆平成21年8月 介護福祉用品・東大阪ラクーパシステム(株)の機関誌「ひだまり通信」に防災ワッペンの記事掲載。
- ◆平成21年11月3日
～H22年1月11日 「人と防災未来センター・UDぼうさいプロジェクト企画展」でぴーすの取組みを紹介。
～すべての人のための防災対策・日頃の備え～ 神戸：防災未来館 2F 防災未来ギャラリーにて
- ◆平成21年11月27日 サンスクエア堺にて、日本災害情報学会創立10周年記念事業 全国政令指定都市シンポジウムで、DRI石川研究員の発表の中で、ぴーすの障害児者のための防災の取組みを紹介
- ◆平成21年12月5日(土)午後8時～ NHK教育テレビ 2時間生放送「ETVワイドともに生きる」
『【大阪発】もしもの時 どうしたらええねん!? “障害者と災害”を考える』で各地の先進的な取組みの一つとして、ぴーすの防災ワッペンが紹介される。



【資料提供など】

- ◆平成21年7月 山梨県甲府市障害福祉課より
「障害児への防災対策資料について」問い合わせあり、資料提供
- ◆平成22年2月 朝日新聞さいたま総局より
「災害時要援護者問題のセミナー」の参考資料として成果物他を提供

ぴーすは、相談事業として堺市の委託（堺市障害者（児）生活支援事業）と大阪府の指定（相談支援事業）として事業所：ぴーすの支援センターにおいて相談事業等を実施しています。また大阪府指定の居宅介護支援事業＝ぴーすのヘルパーステーションで居宅介護等支援事業も実施しています。合わせて、平成21年度の活動は以下の通りです。

1：ぴーすの支援センター（障害者生活支援センター）

年間相談実人数：214名（昨年 176名） 年間相談延べ件数：1568回（昨年 1158回）

障害種別

視覚	聴覚	肢体	内部	知的	精神	発達	その他	重複
2	2	7	0	116	9	38	40	19

相談内容：福祉サービスの利用援助（居宅介護支給量の計画や使い方など）	295件
健康・医療・保健（医療機関の紹介など）	20件
家族関係・人間関係に関する相談	7件
日常生活の相談（障害理解・不安や情緒の安定・生活技術の向上）	219件
家計・経済の相談（障害基礎年金や生活保護・金銭管理）	79件
保育・教育の相談（進路・不登校・放課後活動など）	237件
就労の相談	14件
社会参加の相談（社会参加・余暇活動について）	39件
その他（各関係機関との連携など）	660件
ケアプランの作成	7件
障害児母親のピアカウンセリング	12件
サービス利用計画の作成	263件

平成21年度の相談の傾向として・・・

- 前期（4月～9月） 学齢期・幼児の保護者からの相談が圧倒的に多かった。 → 学校・生活面での相談
 幼児期のサービス（主に短期入所やファミリーサポートサービスなど）の相談・同行支援
 学齢期の学校との関わり方、登校拒否、放課後のサービスについて多く相談がありました。
 特に、4月の新学期、6月の体育大会後などに相談が集中しました。
- 後期（10月～3月） 成人の方の障害者年金の相談や、個別の支援教育・進路についての相談が多くありました。
 また、3月には学齢期のお子さんの新年度の事についての相談がかなり多かったです。
 成人の方への支援がかなり増え、1月には述べ件数が成人期の方のほうが多くありました。
 また、発達障害についての相談が、学齢期・成人ともに増加傾向にあります。

その他、支援センター連絡協議会、北区自立支援協議会、堺市自立支援協議会当事者部会などに参加しました。

2：ぴーすのヘルパーステーション（障害者居宅介護支援事業所）

平成18年6月に開設し、もうすぐ5年目に入ります。利用者のほとんどが児童です。現在、契約利用者は48名、登録ヘルパーは37名です。平成21年度の育児支援ヘルパーの利用はありませんでした。児童の方のご利用者様が多いため、ご利用は、ほとんどが土日祝日や長期休暇の外出支援になっています。

平成21年度の研修は

- 6月 救命救急講習会
- 8月～11月 知的障害とは何か 自閉症とは何か
 コミュニケーション支援のABC
 緊急対応に備える 報告の仕方
- 12月～3月
 良い支援者とは
 延べ22回実施（年間参加者：184名）



■障がい者を支援するモノの販売■

「障がい児・者のための楽しい暮らしを支援する」ための様々なものの販売などを行っています。

平成21年度に取り扱った主な商品は、以下の通りです。

《びーすオリジナルイヤーマフ》

発達障害や知的障がい児者には聴覚過敏のある子・方がいます。

そんな人たちが、カーレースや工事現場で働く人が騒音防止のために使用していたイヤーマフを支援機器として使うようになりましたが、高価なためなかなか手が出なかつたりしました。そこで、びーすではカー用品専門店の“デューポイント”さんのご協力により、災害時要援護者マーク入りのオリジナルイヤーマフを作成。安価で提供することができるようになりました。当初、無謀な賭け?とも言われつつも1,200個製作したこのイヤーマフですが、『おめめどう自閉症サポート企画』でも取り扱いいただいたこともあり、またびーすにも全国各地より、保護者の方だけでなく、支援学校・福祉施設からのお問い合わせ・ご注文をいただき、この夏追加製作をするまでになりました。リピーターの方や、口コミでの情報もよせられ、支援の輪の広がりを実感しています。



《箸蔵くん・箸蔵くんII》



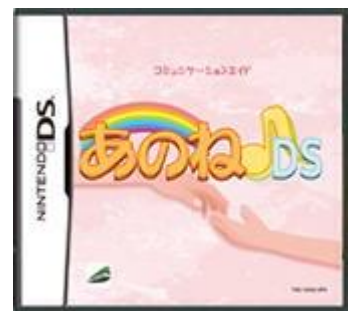
高齢者やまひのある方向けの自助具として製作された介助箸「箸蔵くん」ですが、知的障がい児たちが楽しく食事できる支援グッズとしてびーすからたくさん幼児用サイズを特注するうちに、メーカーさんもそのニーズの高さを感じていただき、箸蔵くんMINI(17cm)/箸蔵くんminimini(15cm)を定番商品化していただくことになりました。http://www.hashizokun.com/k_c_top.html いずれも箸蔵くんIIの子どもサイズとなっております。これまで通り、グリップの大きな箸蔵くんも特注で幼児サイズ・ジュニアサイズを製作いただいております。こちらも全国からお問い合わせご注文いただき、定形外郵便での発送をさせていただきます。

《あのね♪DS》

これまで、PDAや携帯電話(au)に展開していた会話補助装置「あのね♪」が、2009年秋にNINTENDO DSのソフトとして登場しました。

「おしゃべり」「スケジュール」「写真」「タイマー」など、豊富な機能が搭載され、DSiなら写真を活用したコミュニケーションもかんたんにでき、名前も付けて、音声での読み上げもできる優れものとなっています。写真は50枚まで保存可能。データは100件保存できます！

持ち歩けるスケジュールとして、その場での写真撮影や取り込みもOK！急な変更もこれさえあれば、簡単に提示できます



●その他の取り扱い支援グッズ(抜粋)・タイムタイマー・PACタイマー・かむチューブ・巻物カレンダー・コミュニケーションメモ・Uシンボルシール集・防災ワッペン・防災手帳・IDカード・医療カード・おでかけスケジュール

●書籍 発達障がいに関する書籍(売れ筋商品)

・びーすオリジナルの発達障がい啓発冊子「知る/理解する/支援するための本」「快適な住まい」「愉快なおしゃべり入門」「自閉症の子どもたちの生活を支える」「自閉症のすべてがわかる本」「障がいのある子ってどんなきもち？」など

平成21年度 売り上げ件数・支援グッズ 1,534点・書籍 528点 合計 2,062点

■ その他 ■

メディア掲載／講師派遣など

-
- 4月 7日：産経新聞の朝刊・大阪ニュースのページ「人間大好き」のコーナーに、ぴーす理事長・小田が紹介される。
- 4月15日：日本女性会議2009 さかい実行委員会に田中和美が参加、以後21年秋の会議開催に向け会議出席
- 4月16日：堺障害者団体連合会の国会懇談会に、理事長・小田が参加。
- 4月16日：～18日まで。インテックス大阪で開催の「バリアフリー2009 大阪」でe-ATパビリオンより委託を受け、支援グッズなどの販売をぴーすスタッフが担当する。
- 4月28日：藤井寺市心身障害児(者)父母の会主催 講演会に「障害児者のコミュニケーション支援」のテーマで、ぴーすの支援センター相談員・大西俊介が講師を務める。
- 4月28日：ビッグアイ「バリアフリーアートアカデミー事業」の企画提案審査会に、理事長・小田が審査員として参加。
-

- 5月13日：中区まちづくり会議に理事長・小田が出席。以後21年の委員として継続参加。
- 5月22日：テレビ大阪の番組「ボランティア21」に理事長・小田が出演。ぴーすを設立するまでの歩みや、現在の多岐にわたるぴーすの活動などが紹介される。
- 5月25日：堺市社会福祉事業団の評議員に理事長・小田が承認され、評議会に出席する。以後21年の評議員として継続参加。
- 5月31日：名古屋市のグループ「たんぼぼ」より依頼をうけ「障がい児者を持つ家族の防災について」のテーマで理事長・小田が講師を務める
-

- 6月 2日：大阪府立堺東高校の社会福祉援助技術の授業で、理事長・小田が「障がい児の母の気持ち」をテーマに、講師をつとめる。
- 6月23日：新・堺あったかプラン推進会議懇話会に理事長・小田が委員として出席。以後21年の委員として継続参加。
-

- 7月 2日：堺市立平井中学校にて、3年生対象／福祉ボランティア体験に行くための事前授業として「障がいを理解する・支援する」のテーマで、理事長・小田が講師を務める。
- 7月 3日：障害児支援のための情報誌「あいのと」編集会議にぴーすの支援センター・松本が参加。以後21年の会議に継続参加。
- 7月 8日：ビッグアイ「バリアフリーアートアカデミー事業」で3月に開催される舞台公演の企画提案審査会が実施され、理事長・小田が審査員をつとめる。
- 7月10日：「堺ソーシャルワーク研究会」の事例研究会に、ぴーすの支援センター・大西が助言者として出席。
-

- 8月24日：堺市公立保育所職員研修にて「障がい児の母親を支援する」のテーマで、理事長・小田が講師をつとめる。
- 8月26日：ビッグアイ「国際交流事業」に係る企業提案審査会に、理事長・小田が審査員として参加。
- 8月31日：おもちゃ図書館ぽっぽよりの依頼で、年長児保護者対象の就学相談会を開催する。
-

- 9月3日・9日・11日：5園さくらの会主催の勉強会からの依頼で、もず園・つぼみ園・えのきはいむの各園に、ぴーすスタッフ3名が講師を務める。
- 9月 5日：和歌山自閉症・発達障害研究会主催の講演会に「大災害！発達障がい児をどう守る？」のテーマで、理事長小田が講師を務める。
- 9月 8日：えのきはいむ保護者会主催のコンサートを企画、開催する。
- 9月14日：浜寺石津校区いきいきサロンより依頼をうけ「災害に備えよう」のテーマで理事長・小田が講師を務める。
-

- 10月 6日：加古川市陵南公民館からの依頼を受け「自閉症療育講座」の講師を理事長小田が務める。
- 10月17日：おもちゃ図書館ボランティア近畿地区研修会が開催され、9名のスタッフが参加。分科会では、ぽっぽ代表

松田が事例発表をする。

- 10月16日：堺市障害者施策推進協議会・発達障害者支援専門部に理事長・小田が委員として参加。当事者の立場で、本人や家族の声を届ける。以後21年の委員として継続参加。
- 10月28日：バリアフリーアートアカデミー・ハートフルフェスタ事業に係る企画提案審査会に理事長・小田が審査員として参加。
- 10年30日～31日：日本女性会議2009さかいに、ぴーすから田中和美が参加。
-

- 11月6日：百舌鳥支援学校の低学年のつどいの講師として山本明美と出来 薫が講師を務める。
- 11月13日：もず園保護者会より依頼を受け、保護者階主催のコンサートを企画開催。
- 11月14日：大阪府教育センターで近畿障害児教育臨床研究会が開催され、ぴーすから小田・山本明美の2名が参加し、それぞれの子どもの放課後／余暇の過ごし方について発表。
- 11月21日：市長と市民のふれあいトークに理事長・小田が市民の一人として参加。
- 11月23日：阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」主催の防災セミナーが神戸の兵庫県立美術館で開催され、ぴーす理事長・小田が知的障害者分野を代表してパネリストとして参加。
- 11月24日：府立堺東高校 社会福祉援助技術の授業で知的障害をメインとした「障害の理解と支援」について理事長・小田が講師を務める。
- 11月28日：ヘルパー事業所・ナイスでの依頼を受け「障害者とその家族の防災」について理事長・小田が講師を務める。
-

- 12月5日：NHK教育テレビの2時間生放送「ETVワイドともに生きる」でぴーすの防災ワッペンが紹介される
- 12月17日：神戸の人と未来防災センターの職員研修「ミュージアムにおけるユニバーサルデザインを考える集い」で「知的障害・発達障害の防災」について、理事長・小田が講師を務める。
-

- 1月9日：堺市障害者団体連合会の「新春交流会」にぴーすから、小田・山本明美が参加。
- 1月14日～16日：北区障害者自立支援協議会主催の『つながるウイーク KITAKYO』にぴーすの支援センターが参加。
- 1月18日：百舌鳥支援学校・中1のつどいで、障がい児家族のための防災について、理事長・小田が講師を務める。
- 1月19日：府立堺支援学校のPTA講演会において「地域の中で子どもを育てる～社会の中での自立に向けて～」のテーマで理事長・小田が講師を務める。
- 1月26日：奈良県五條市保健福祉センター主催の講演会で、障がい児家族のための防災について、理事長・小田が講演。
- 1月28日：堺市北区の北保健センター主催の「北っ子クローバーの会」に、ぴーすから山本明美が講師として参加。
-

- 2月6日：堺市立東文化会館にて堺「自分らしく」フォーラムが行われ、『私たちが暮らす街く堺くで自分らしく暮らすために』のテーマにぴーすの支援センター・松本が出演。
- 2月末：堺市障害者（児）相談支援事業（支援センター）「委託業者」の選定期間で、公開型プロポーザルがあり、ぴーすの支援センターから、企画提案をし採用が決定。
-

- 3月3日：大阪府教育委員会主催の「個別の教育支援計画」作成・活用実践報告会があり、小田が講師を担当。
- 3月10日：堺市発達障害者支援センター連絡協議会にぴーすの支援センター・松本が参加
- 3月13日：障害当事者部会の定例会が行なわれ、ぴーすの支援センターも参加。